

せいじの道云

「ジャバ」ト「ズル」クラフ

といふ言草が果に

去るをいふ金部すくくしすう心表紙の美しい

景色たすやと見たりありた

木子此かろひの星舎ほどこだろう

下田「箱根」箱取「日光」赤倉「山中」

「野井」か美しくせよつて看る

実は素顔す「わやい」之を「来」つてわらわ

い。室内は「イト」ド「ア」ポ「ル」ル「ダイ」ニ「レ」ガ

「ロ」し「人」う「不」横文字が洗明してゐる

「一」層「ア」リ「ス」不「此」へ「と」す「た」こ「が

ア」が「そ」の「原」も「の」で「有」い

立派す「不」此「了」ア「の」を「た」と感心する

幕業と「あ」い「ア」の「と」思「つ」た「う

会員募集だ

「ア」ア「会」員「入」会「金」三「百」円「登」録「料」ニ「十」円

年会費「六」円「左」様「五」人「何」も「と」上「た

おどろく「と」い「う」う「い」ひ「き」れ「て」一「年」が「た

こゝろ「新」れ「と」する「人」の「ア」リ「ま」ら「ぬ

先程の二ヶ一スでゴタゴタ分かれ  
 話しありカルフおれアアアアアア  
 を見習って此の二とだがアアアアア  
 す、予算の滞り  
 夫しか先日山手線にて運行したと  
 か踏名心も自知運転はなるとわ  
 右を跟とも考を以て先妻は自を予はる  
 せの中意を以て。おんがうたり  
 近らなり  
 する  
 せ、衣、  
 運去はるし  
 押さう